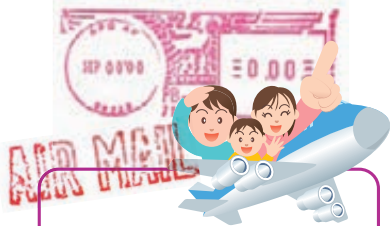


海外生活レポート②



【ポーランド】



▲ワルシャワ ワジェンキ公園にて

レポーター 坂田 慶子 さん
2008年5月よりワルシャワ在住

畑の真ん中に突如現れた日本企業
の巨大工場。工場までの道路
(手前)は、まだ建設中

ポーランドの日本企業

海外で日本製品を見かけることは頻繁にあります。自動車をはじめとして、オーディオ製品や家電製品、また、外国のホテルでテレビをつけると日本のアニメに遭遇することもしばしばです。街を歩いて、目抜き通りで日本企業の大きな広告やネオンサインを見つけると、「あ、日本の会社！」と嬉しくなったりします。ことに、外国の田舎町(失礼!)で、日本企業が大きな工場を構えているのを見かけると「こんなところにまで進出しているなんて、日本企業はスゴいなあ」と感心することしきりです。



ポーランドには、日本企業が約230社(2008年10月、日本大使館調査)進出しています。この中でポーランドに工場を持ち、製品を製造している会社は約70社あります。工場を建設するには広大な土地が必要ですから、これら工場は、首都ワルシャワや他の大都市から少し離れた郊外に位置する経済特区に進出しています。ポーランド以外の国でも大体同じ状況ではないかと思われます。きっと、海外旅行の際に郊外をドライブする機会があれば、日本企業の大きな工場を見かけることがあるのではないのでしょうか。何にもない畑の真ん中に、巨大な日本の工場が立っているのを見かけると誇らしいと同時に、日本企業の活躍の幅広さに本当に感心させられます。



ワルシャワ中心部にある旧共産党本部ビル。正面に大きく「リコー」の看板



▲ワルシャワ中心部のビルに「東芝」の看板

ポーランドにある、日本企業の工場をいくつか見学しましたが、どの工場でも日本的な経営手法を取り入れ、それがポーランド人従業員にも受け入れられ、まさに日本とポーランドの融合が上手くいっているという印象を受けました。例えば、見学させていただいた工場はどれも整理整頓(靴の脱ぎ方、道具の片付け方等々)が行き届き、隅々まで塵ひとつなく清潔。そのため仕事を効率的に、安全に行うことができているようです。おそらく事故も少ないでしょう。

ところで、「整理整頓」といった日本ではごく当たり前のことでも、外国では当たり前に行われていないことがあります。外国においてこういった「日本的」手法を、その国の習慣を尊重しつつ導入することは容易なことではないでしょう。しかし、ポーランドで活動を行う日本企業は、どこもこれに成功しているように見えました。ある日本の大手タイヤメーカーはポーランドに進出して10年になりますが、勤続10年の従業員を表彰したり、日本で言うところの「社員旅行」を行うことで、日本人従業員とポーランド人従業員の間の相互理解を深めたり、地域貢献活動を行うなど、本業以外のところでも大変上手くいっています。このような市井の人々の間での相互理解、異文化理解が真の国際交流といえるのだと実感しています。

今や海外に居住する日本人の数は100万人を超えています。この多くを占めているのは企業関係者ではないのでしょうか。海外において「日本」を象徴し、また外国人が実感できる身近な「日本」は、実は日本企業なのではないかと思えます。国際交流の最前線は、海外にある日本企業のオフィスや工場かもしれません。



▲ワルシャワ中心部の高層のマリオットホテル。その隣のビルに「シャープ」の看板。これは高層ビルなので、かなり目立つ看板です。右下に角だけ写っているのはワルシャワ中央駅